おかやま県民文化祭参加行事
岡山後楽園能舞台復元六十周年記念事業

第四十八回 後楽能

■第一部　十二時始

喜多流大島社中発表
舞囃子・仕舞・独吟等

■第二部　十四時始

対談　岡山の能と鶴　金関　猛
舞囃子　高砂　大島　輝久　大島　衣恵
狂言　末広かり　田賀屋夙生
新作能　鶴　大島　衣恵

大島　衣恵
喜多流シテ方能楽師

大島　輝久
喜多流シテ方能楽師

田賀屋　夙生
大蔵流狂言師

日時
2018年11月3日（祝）［開場］11：30

岡山後楽園 能舞台

岡山県岡山市北区後楽園1-5　TEL.086-272-1148

■鑑賞券　一般券▸4,000円　学生券▸2,000円（当日500円増・後楽園入園券付）

［主催］岡山能楽会　［共催］岡山県　［後援］岡山県教育委員会 / 山陽新聞社 / 岡山県郷土文化財団

おかやま県民文化祭
岡山後楽園能舞台復元六十周年記念事業

第四十八回 後楽能

とき　平成三十年十一月三日（文化の日）
開場　十一時三十分

第一部　十二時始

大島社中発表
舞囃子・仕舞・独吟等

休憩

第二部　十四時始

対談

岡山の能と鶴

金関　猛（岡山大学文学部教授）
大島　衣恵（能楽師 喜多流シテ方）

舞囃子（喜多流）

高砂

シテ　大島　輝久
大鼓　守家　由訓
小鼓　横山　幸彦
太鼓　梶谷　義男
笛　八木原周平

狂言（大蔵流）

末広かり

果報者　田賀屋夙生
太郎冠者　島田　洋海
都のすっぱ　網谷　正美

休憩

能（喜多流）

鶴

シテ　大島　衣恵
ツレ　塩津　圭介
後見　高林　呻二
高林　昌司
大鼓　守家　由訓
小鼓　横山　幸彦
太鼓　梶谷　義男
笛　八木原周平
地謡　山下　寿水　大島　輝久
角田　正昭　大島　政允
奥田　浩平　出雲　康雅

終了予定　十六時頃

■曲目解説

■狂言「末広かり」

果報者が多くの客を集めて、めでたい宴会を開こうとします。ついては贈り物として末広(扇)を用意したいので、家来の太郎冠者を呼びつけ、良質な地紙で骨に磨きがかかり、戯れ絵が描かれている末広を買うよう命じます。太郎冠者は末広が何かわからないまま都へ行き、大通りで「末広を買おう」と大声で呼び歩きます。そこへ、すっぱが現れ古傘を取り出し、「これが末広だ」と言いくるめて売りつけます。おまけに、主人の機嫌が悪い時に謡うと良いといって、囃子物を教えます。先にゆくほど運が開ける、めでたい扇を主題にした祝言の狂言です。

■新作能「鶴」

土肥善麿 作　喜多実 節付・演出
昭和三十四年初演

現行の祝賀名曲に「鷺」がありますが、「鷺」は少年期では十四才、老年期では家元が六十才、弟子家では七十才にならないと許されないことになっています。そこで、同じ鳥類の生態そのものを舞うという発案により、飛ぶ姿が美しく、おめでたい鳥の代表である鶴を題材とした能が作られました。
万葉集第六巻、山部赤人の歌「若の浦に潮満ちくれば 潟をなみ 芦辺をさして鶴鳴きわたる」を主題としています。和歌の浦一覧の都人の前に現れた若い女性が、当時の事情を語ります。苦吟の赤人が群鶴飛翔の一瞬に忽然神感を得て即興の一首を添えたことを述べて、みずからそのときの一羽の精であることを明かし、舞衣のそでを美しくひるがえし永遠の空に飛んでゆくのでした。シテの出の謡にフーガ形式を採り、語りの中に地謡を入れ、囃子の手にも創意が加えられています。

お問い合わせ
岡山後楽園……TEL.086-272-1148
www.okayama-korakuen.jp
岡山能楽会（大島）……TEL.084-923-2633
www.noh-oshima.com

チケット販売
岡山後楽園入場券売場……TEL.086-272-1148
天満屋バスステーションチケットセンター……TEL.086-231-7679
ぎんざやプレイガイド……TEL.086-222-3244
喜多流大島能楽堂……TEL.084-923-2633

後楽能　事前講座のお知らせ

とき：2018年10月20日（土）14:00～15:30
ところ：天神山文化プラザ 第1会議室
岡山市北区天神町8-54
会費：500円（岡山能楽振興会賛助会員・後楽能チケットをお持ちの方は無料）
講師：大島衣恵　八木原周平
お申込：岡山能楽会（大島）TEL･FAX.084-923-2633
osimano@orange.ocn.ne.jp